

【資料】 用語説明

あ

用語	説明
■ 浅井戸	不圧地下水（自由面地下水）を取水する井戸。一般的に深度は10～30m以内の比較的浅い地下水を汲み上げることから、浅井戸と呼ばれる。降水量の多少によって地下水面は変動し、水質は地上の条件に影響されやすい。
■ アセット マネジメント	中長期的な視点に立って、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動のこと。現在保有している資産の状態・健全度を適切に診断・評価し、中長期の更新需要見通しを検討するとともに、財政収支見通しを踏まえた更新財源の確保方策を講じる等により、事業の実行可能性の確保を図る。
■ 一日最大給水量	年間の一日給水量のうち最大の水量。（4月1日から3月31日まで）
■ 一日平均給水量	年間の総給水量を年日数で除した水量。（4月1日から3月31日まで）
■ 営業費用	費用勘定の一つ。主たる事業活動に伴って生じる費用。水道事業においては、原水費、浄水費、配水費、給水費、受託工事費、業務費、総係費、減価償却費、資産減耗費及びその他営業費用に区分して記載することとなっている。
■ 営業外収益	収益勘定の一つ。主たる営業活動以外の財務活動から生じる収入。収益勘定は、営業収益、営業外収益及び特別利益に区分されるが、営業収益と営業外収益を区分するのは、それが主たる営業活動を源泉としているか、それ以外の活動を源泉としているかという点である。預貯金・貸付金から生じる受取利息、有価証券の配当、損失補てん的な意味を持つ補助金、雑収益などがこれに当たる。
■ 塩化ビニール管	熱した押し出し成形機によって製造したもので、塩ビ管とも呼ばれる。耐食性・耐電食性に優れ、管内面付着物の発生もなく、軽量で接合作業が容易であるが、反面、衝撃や熱に弱く、紫外線による劣化や凍結による破損が起こりやすい。

■ 応急給水	地震等の災害時に水道管等が破損し、水道による給水ができなくなった場合、給水車、給水タンク、給水容器などから給水すること。
--------	--

か

用語	説明
■ 加入金	増加する水需要に対処するため必要となる水道施設の拡張、整備などの経費の一部に充当される。これらの経費の増加は、新規の水道利用者が増えることが大きな原因となっていることから、従来からの水道利用者との負担の公平を図る措置として、条例に基づき、給水装置の新設・増径者から口径に応じて負担額が設定されている。
■ 企業会計	自治体（市）が直接経営する企業の会計。民間企業同様に事業収入で支出をまかなうことを原則としており、一般会計とは区分して経理する。民間企業に準じた会計制度である。（地方公営企業法適用） 収益については実現主義を、収益に対応する費用については、発生主義により計上する発生主義会計を採用している。企業の経営成績及び財務状態を正確に把握することに適している。
■ 企業債	水道事業において、建設、改良等の費用に充てるために国等から借りた資金。
■ 企業債償還金	企業債の発行後、各事業年度に支出する元金の償還額、または一定期間に支出する元金償還金の総額をいい、地方公営企業の経理上、資本的支出として整理される。
■ 基本計画	各水道事業などが置かれた自然的、社会的条件のもとで、計画年次、今後取り組む事業内容の根幹に関する長期的な計画のことで、基本方針、基本事項などからなっている。基本設計ともいう。
■ 基本料金	二部料金制において、水道水の使用量と関係なく定額で徴収する料金部分のこと。使用料に応じて徴収する従量料金との合計額が水道料金となる。
■ 給水区域	水道事業者が厚生労働省又は都道府県の認可を得て給水義務を負う区域。
■ 給水区域内人口	給水区域内の居住人口。

■ 給水原価	有収水量 1 m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。 給水原価 = {(営業費用 + 営業外費用) - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 付帯事業費)} ÷ 年間総有収水量
■ 給水収益	水道料金による収入のこと。
■ 給水人口	給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口のこと。
■ 給水装置	需要者に水を供給するために、水道事業者の施設した配水管から分岐して設けた給水管及びこれに直結する給水用具。
■ 給水量	給水区域内の一般の需要に応じて給水するため、水道事業者が定める事業計画上の給水量のこと。(水道法第3条第12号) 統計などにおいては、給水区域に対して給水をした実績水量をいう。
■ 急速ろ過	戦後、急速に広まった浄化方法で、薬品を使用して水をろ過する。濁った原水に「硫酸アルミニウム」や「ポリ塩化アルミニウム」等の薬品を注入して濁りの成分を沈殿・除去した後、最後にその上澄み水を高速にろ過する(150m/日くらい)ことから「急速ろ過」とよばれる。多くの場合、総合的なろ過能力は「緩速ろ過法」より劣るとされ、細菌の除去など衛生的安全性の一部に関しては塩素消毒に頼っている。
■ 供給単価	有収水量 1 m ³ あたりについて、どれだけの収益を得ているかを表す指標値で、給水収益を年間総有収水量で割って算出。
■ 経営戦略	総務省の「公営企業の経営に当たっての留意事項」において、経営等について適格な現状把握を行った上で、中長期的な視野に基づく計画的な経営に取り組み、徹底した効率化、経営健全化を行うよう策定を求めたもの。
■ 計画人口(計画給水人口)	上水道計画を行う場合、計画目標年次を設定して、その目標年次に達するであろう計画区域内の人口を推定することを計画人口といい、そのうち給水対象人口を計画給水人口という。
■ 減価償却	固定資産は、使用によってその経済的価値を減少していくが、この減少額を毎事業年度の費用として配分すること。これによって固定資産に投下された資本を回収するもの

	で、この計上額が企業内に保留されるという財務的効果が現れる。
■減価償却費	固定資産の減価を費用として、その利用各年度に合理的かつ計画的に負担させる会計上の処理または手続きを減価償却といい、この処理または手続きによって、特定の年度の費用とされた固定資産の減価額を減価償却費という。
■鋼管	素材に鋼を用いていることから、強度、韌性に富み、延伸性も大きいため、大きな内・外圧に耐えることができる。また、溶接継手により連結されるため、管路の一体化が可能であり、継手部の抜け出し防止策が不要となるほか、軽量で加工性が良いなどの特徴がある。こうした反面さびやすいため、内外面に高度防食塗装を要することから、他の管路に比べ施工性に劣るなどの短所がある。
■更新	老朽化した施設・設備の機能を回復させるため、取り替えあるいは再建設を行うこと。

さ

用語	説明
■錆こぶ	防食処理のされていない鉄管及び鋼管の内面に、侵食性のある水によってサビが生じ、付着してこぶ状（結節）となったもの。通水断面の縮小による通水能力の減退や出水不良、赤水発生の原因となる。現在製造されている管には、高度な防食処理が施されているため、サビこぶはほとんど発生しない。
■残留塩素	水に注入した塩素が、消毒効果をもつ有効塩素として消失せずに残留している塩素のこと。水道法施行規則において給水栓水の残留塩素濃度は遊離塩素 0.1mg/L 以上とされている。
■紫外線処理装置	紫外線のもつ殺菌作用を利用して殺菌処理を行う装置。
■資産減耗費	資産減耗費は、固定資産除却費とたな卸資産除却費に分類される。
■支払利息	営業外費用の一つで、企業債、他会計からの借入金、一時借入金等について支払う利息をいう。
■資本的収支	収益的収入及び支出に属さない収入・支出のうち、現金の支出を伴うもので、主として建設改良及び企業債に関する

	収入及び支出をいう。資本的収入には企業債、出資金、国庫補助金などを計上し、資本的支出には建設改良費、企業債償還金などを計上する。
■収益的収支	企業の経常的経営活動に伴って発生する収入と、これに対応する支出をいう。収益的収入には、給水サービス提供の対価である料金などの給水収益のほか、受取利息などを計上し、収益的支出には給水サービスに必要な人件費、物件費、支払利息などを計上する。発生主義に基づいて計上されるため、収益的支出には減価償却費などのように現金支出を伴わない費用も含まれる。
■修繕費	営業費用の一部をなす。有形固定資産、たな卸資産などの維持修繕に要する費用である。
■従量料金	水道サービスの実使用料に応じ、すなわち1立方メートル当たりいくらかとして徴収される料金である。
■受水（施設）	当該水道事業体の原水の不足などのために、他の地方公共団体や水道用水供給事業から原水や浄水などを受けること。またその水を受けるための施設。
■取水施設	原水を取り入れるための施設総体をいう。河川水や湖沼水などの地表水の取水施設としては、取水堰、取水門、取水塔、取水枠、取水管渠があり、地下水や伏流水の取水施設としては、浅井戸、深井戸、集水埋渠がある。
■取水堰	河川に堰を設置して流水をせき上げし、計画取水量を安定して取水するための取水施設の種類。ゲートにより水位が調節できるものを可動堰、調節できないものを固定堰という。
■浄水施設	水源から送られた原水を飲用に適するように処理する施設。一般的に、凝集、沈澱、ろ過、消毒などの処理を行う施設をいう。浄水処理の方式は水源の種類によって異なるが、①塩素消毒のみの方式、②緩速ろ過方式、③急速ろ過方式、④高度浄水処理を含む方式、⑤その他の処理、の方式のうち、適切なものを選定し処理する。
■新水道ビジョン	水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン」を全面的に見直し、50年度、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、取り組みの目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担を提示したもの。

■ 水源	水源の種類には、河川表流水、湖沼水、ダム水、地下水、湧水、伏流水がある。水道用水源は、現在及び将来についても計画取水量を常時確保できる等量的に安定していること、水質が水道用として供するにふさわしい良好なものであること、の二つの条件を満足することが望ましい。
■ 水質基準	水道法により規定される水質基準であり、水道水が備えなければならない水質の要件。
■ 水質検査計画	水質管理を効率的・合理的に行うための計画。水質検査計画には、検査項目・頻度・検査地点・検査主体等の基本事項とその考え方を盛り込むこととされている。
■ 石綿セメント管	石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を練り混ぜて製造したもの。長所としては耐食性、耐電食制が良好であるほか、軽量で、加工性がよい、また価格が安いなどが上げられる。一方、強度面や耐衝撃性で劣るなどの短所がある。高度成長期の昭和 30～40 年頃をピークに使用されていたが、その後、強度の問題から布設替えが進められている。全国的な需要減により昭和 60 年に製造が中止された。
■ 送水管	浄水場から配水地まで浄水を送る管。
■ 送水施設	浄水場から配水池までに浄水を送る施設をいい、調整池、送水ポンプ、送水管、送水トンネル及びその付帯施設である。
■ 損益	資本の元入あるいは引出以外の企業の経済活動の結果として生じた正味財産高の増加または減少のことをいう。

た

用語	説明
■ 耐震管	導・送・配水管における耐震型継手を有するダクタイル鋳鉄管、鋼管及び水道配水用ポリエチレン管（高密度）をいう。ダクタイル鋳鉄管の耐震型継手とは、S 形、SⅡ形、NS 形、US 形、UF 形、KF 形、PⅡ形など離脱防止機能付き継手をいう。鋼管は溶接継手を有するもの、水道配水用ポリエチレン管は熱融着継手を有するものに限り耐震管という。
■ 耐用年数	固定資産が、その本来の用途に使用できるとみられる推定の年数。固定資産の減価償却を行うための基本的な計算要

	素として、取得原価、残存価額とともに必要なものである。その年数は、使用及び時間の経過による物質的原因と技術の進歩による陳腐化などの原因に基づき、過去の経験等を参考として決定するものである。
■ダクタイル鋳鉄管	鋳鉄に含まれる黒鉛を球状化させた鋳鉄管。従来の鋳鉄管に比べ、強度に富み、施工性が良好であるため、現在、水道用として広く用いられている。重量が比較的重い等の短所がある。
■地下水	地表面に降った雨が土壌の間隔を通じて浸透し不浸透層に達して、そこに滞水するか、または河川水が河川流域の土壌に浸透して地下水流となる。
■地方公営企業法	地方公共団体が経営する企業のうち、水道事業（簡易水道事業を除く）、工業用水道事業、軌道事業、自動車運送事業、鉄道事業、電気事業及びガス事業の7事業（これらに附帯する事業を含む）を地方公営企業といい、（地方公営企業法第2条第1項）同法の全部適用事業（法定事業）としている。なお、水道事業には水道用水供給事業を含み、下水道事業は含まない。
■鋳鉄管	鉄、炭素、ケイ素からなる鉄合金（鋳鉄）で作られた水道管。1959年、より靱性の強いダクタイル鋳鉄管が企画、製造化されたことにより、現在はほとんど使われていない。
■貯水槽水道	水道事業の用に供する水道及び専用水道以外の水道であって、水道事業の用に供する水道から供給を受ける水のみを水源とするもの。簡易専用水道及び受水槽の有効容量が10 m ³ 以下のもの（いわゆる小規模貯水槽水道）の総称。
■導水施設	（＝導水管） 水道施設のうち、取水施設を経た水を浄水場まで導く施設で、主要なものは、導水路（導水渠、導水管）、導水ポンプ、原水調整池などである。
■動力費	営業費用の一部をなす。動力費には、機械装置などの運転に必要な電力料及び燃料費などである。
■特別会計	地方公共団体が特定な事業を行う場合、その他特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般の歳入歳出と区分して経理する必要がある場合に、一般会計とは別に収支経理を行う会計をいう。

は

用語	説明
■配水管	浄水場において製造された浄水を水圧、水量、水質を安全かつ円滑に需要者に輸送する管で、浄水を配水支管へ輸送する配水本管、配水本管から浄水を分配し、給水管に分岐する配水支管とに分類される。
■配水池	水道は、一日を通じて平均的に使用されるのではなく、朝夕の一定時間に集中して使用される。需要量に応じて適切な配水を行うために、浄水を一時貯えるための池。湯水や地震、事故など災害時には、配水池に貯められた水が飲料水や消火用水となるなど、災害対策でも重要な施設となる。
■表流水	河道にそって流れる水を表流水という。
■深井戸	第一不透水層（主に岩盤）以下の水を取水する井戸のことをいう。通常 30 メートルより深い井戸。第一不透水層以下は大きな圧力が掛かった被圧水であり、ほとんど地表の影響を受けないため、水質は安定しているといえる。
■伏流水	河川水は河道に沿って流れる表流水の他に、河床や旧河道などに形成された砂利層を潜流となって流れる水が存在する場合がある。この流れを伏流水という。

ま

用語	説明
■膜ろ過（法）	原子を膜に通して、溶解性成分などの小さな不純物まで分離除去する浄水方法である。分離できる粒子径や分子量により、0.01 μm 以上の粒子を分離できる精密ろ過膜、分子量 1 千～30 万程度まで分離できる限外ろ過膜、分子量最大数百程度まで分離できるナノろ過膜などがある。

や

用語	説明
■有収水量	料金徴収の対象となった水量及び、他会計等からの収入のあった水量のこと。

■ 有収率	有収水量を給水量で除したもの。
■ 湧水	地下水が地上に湧き出したもの。


 ら

用語	説明
■ 料金体系	個々の需要者から徴収する水道料金の算定の基礎となる単価の体系をいう。使用水量の計量を前提とするか否かにより、定額制と従量（計量）制とに大別され、このいずれか一方による料金体系を一部料金制といい、両者の組み合わせによるものを二部料金制という。さらに口径・用途・水量などの需要種別による単価差の設定の有無により単一制と格差制とに区分される。料金体系の設定にあたっては、水道料金算定上の公正妥当制と、個々の使用者間の客観性を重視する原価主義の立場と、需要者の負担力ないし、サービス価値を尊重する立場とがある。
■ 漏水	漏水とは水道管の劣化、破損などによって水が漏れ出ることを行う。漏水には地上に漏れだして発見が容易な地上漏水と、下水管などに流入して地下に浸透するように発見が困難な地下漏水とがある。管の材質、老朽度、土壌、腐植、地盤沈下、施工不良、または舗装厚、大型車両化による路面荷重、他工事における損傷など、あらゆる要因が漏水を発生させる原因となる。
■ ろ過池	粒状物を充填した層中に水を浸透通過させて懸濁物を除去する池。凝集剤を使用して物理・化学的作用で除濁する比較的ろ過速度の大きい急速ろ過池と、主に生物・化学的作用（生物ろ過膜及び内部の微生物で浄化する）を利用して浄化するろ過速度の小さい緩速ろ過池の2種類がある。